

臨床教育学の「実際」

皇 紀 夫

ンポ)

教育／心理／福祉の学際領域（武庫川女大）。臨床心理／教育心理の応用研究（北海道大）。新種の教育学（京大）。（現状は臨床教育の濫費と空洞化）

◇用語「臨床」の規制緩和

九〇年代のカウンセリングブーム。臨床は医学や心理学の占有語でなくなる（多義化とインフレ化）。

◇学校での「問題」言説の解釈をめぐる（教育相談の現場）

「問題」の見立て方の問題 ↓ 「問題」をどう語るか。

制度言説でしか「問題」が語れない教師たち（教育マニユアル濫用の病理）。

◇「問題」言説の差異化と教育意味の再発見

制度言説の文脈を破るような「拮抗する現実」(counterfactual reality) 出現の試み（これが《臨床》の仕事）。

教育研究の方法と隠喩論／物語論／レトリック論
↓ 教育意味のネジレや意味争奪を仕掛ける（制

1 臨床教育学の誕生

◇臨床教育学誕生の社会的事情。

◇教育学上の立場（臨床心理学の応用学ではなく新種の教育学の可能性を探る）。

◇M・J・ランゲフェルドが提起した「規範的実践的教育学」の課題を継承する。

◇「テキストとしての学校現場」（一九九〇年から二〇〇〇年）

教師を対象にした教育相談（コンサルティング）

2 臨床教育学の立場と方法

73 (皇)
◇臨床教育学の三傾向（一九九六年日本教育学会のシ

度言説から変則言説へ。

3 臨床教育学の「実際」と言語の研究

◇教育「問題」の多義化 ↓ 「問題」はどこにあるか（教育相談）。

◇陳腐化した教育言説の解体と再生（教育的日常が別様に見えるか、教育哲学）。

◇教師再教育とカリキュラム開発（教師論）

「事例」研究と言語の研究を中心にしたカリ。

◇教育と子どもの意味発見の場所としての学校（学校論）

「脱」学校論を差異化する学校論。

〈キーワード〉コンサルティング、意味争奪、

レトリック論